

第3回 豊丘村リニア対策委員会 会議録

平成27年11月30日(月)
午後7時～ 保健センター2F

1. 開 会

総務課長

2. 村長あいさつ

リニアについての動きであるが、いよいよ測量が始まったなと思った後はこれといった動きがない。計画段階であるため思ったように進んでいない感じを受けてはいるが、これから審査など話し合いをしていく必要があるのかと思っている。

豊丘村内の残土については基本的には村外には出さずに、各地区の要望によって山岳地帯で処理できそうな流れの中で、自然災害を防ぎながら残土を有効利用し、且つ又そういうものを積んだトラックが下段を飛び回らないような状況をお願いしたいと思っている。そのため山間部の皆様にはその分迷惑を掛ける事もあるのかと思っている。

中部電力の変電所についても測量が行われ、中部電力の方でも自主的に環境調査を実施するとの話も聞いているし、地元の方と話しをする中で順調な進め方をしていると聞いている。

出来ることが決まったリニア中央新幹線であるので、将来に向けてこの飯田下伊那の発展をどう捉えていくか、当然ながらそれをしっかりと見つめながら工事の安全を祈願するものだと思っている。

是非とも色々な形で、ここにおられる方々はずっとお世話になる方々であるので、しっかりと村のために是非力を貸していただきたい。又JR、中部電力、県の皆様についても、しっかりと力を貸していただき順調な進捗を望むところであります。

本日は、皆さんで実のある話ができれば良いと思っております。どうかよろしく願いいたします。

3. 会長あいさつ

本日は県、JR東海、中部電力と大勢の担当の方が見られているので、いろいろ説明を聞いたうえで疑問点があればどんな事でも出していただければと思います。

だいぶ動きも出てきているとの話も聞いているが、いずれにしろ長い委員会となると思いますし、次から次へと聞きたい事も出て来るかと思うが、そこら辺は遠慮しない様に聞いていただきたいと思います。

熱心なご討議をお願いいたします。

4. 協議・報告事項

(1) JR東海より

- ・現在の事業の状況及び、これからの予定について

中心線測量、地質・水資源に係る調査状況、発生土置き場候補地の現在の進捗状況、これからのトンネル工事のスケジュール等について説明する。

(2) 中部電力より

- ・現在の事業の状況及び、これからの予定について

変電所位置や送電線ルートを選定するための調査・測量を開始したことや自主的な環境調査の計画、工事用電源供給（配電線）の工事状況について説明する。

(3) 主な質疑応答

1) 水資源関係について

Q. 水の調査を行っているようだが、今後どのように進められるのかご説明願いたい。

JR東海

A. 水資源の調査として、どのような形で水源が分布し、どのように使われているかについて調査している。その結果を踏まえ、代替水源も含め、これから検討していきたいと考えている。

Q. トンネルを掘り始めて、水が枯れてしまってから水の手配をするのか、事前に準備をするのか。枯れる前に対応してもらえと思うが、どのように対応してもらえるのか。

JR東海

A. 突然水が枯れて困らないように、事前に準備はしていきたい。環境影響評価書の中に環境保全措置として、代替水源の確保を記載している。対応方についても記載しており、それに基づき対応していく。水が枯れる可能性のある場所があれば事前に対策を考えていきたい。

Q. 福島地区において代替水源の確保と言え、壬生沢川か虻川から水を上げるしかない。それについては当然水利権の問題もあり、調査が終わってからでは代替水源にならないのではないか。

JR東海

A. 代替水源の確保の方法は色々ある。事前に井戸を掘り、いざとなった時にそこから通水する、又は遠くの沢から取水することが考えられる。これには事前取水申請を行っておくなど準備が必要な場合もあるため、これから考えていく。

Q. 現場の状況はJRさんが把握していただくことにより、提案も出来るようになるかと思う。トンネルを掘り始める前に是非福島区と話しをしていただきたい。

JR東海

A. 是非現場にお伺いして、お話をお聞きしたい。

2) 水利用調査について

Q. JRの下請けの会社から何時に行くので水の調査をさせて欲しいと電話での連絡があった。水質調査という言葉を使っていたが、水量調査が必要ではとの意見もある。今回の調査については水質調査なのか水量調査なのか教えていただきたい。

JR東海

A. 豊丘村での水資源調査は、村の調査データを基に調査会社が各所へお伺いし、調査している。今回の調査には大きく二種類あり、ひとつは表流水として河川の流量等を、もうひとつは地下水ということで、井戸や湧水を調査している。表流水については河川の流量、水質を、地下水については、井戸の地下水位、水質を調べている。

Q. その調査については一度だけで、場所の調査に来たのか、今後継続的にやるとすればどのくらいの周期で実施するのか。電話だけではわかりにくいので、文書を置いてくる等の配慮をしていただきたい。

JR東海

A. 調査に際しては、お電話でアポイントをとった上で伺いするというやり方をさせていただいた。今後は意思疎通を図りながら対応させていただきたい。調査の頻度について今回は全ての場所の現況を把握させていただいている。この中から事後調査、モニタリング地点を選定させていただき、事後調査については工事前の一年間及び工事中は毎月1回、工事終了後3年間は四季ごとを基本に実施したい。事後調査を補完するためにモニタリング調査を実施するが、こちらは工事期間中は年1回、工事終了後に1回の調査を考えている。

Q. 今後は佐原地区等の区長さんとよく相談をしていただき、説明会又は意見を交換する場等の開催を提案する。

JR東海

A. まずは現状を把握させていただきたいと考えているが、地元区長さんにご相談させていただき対応させていただきたい。

3) 地区及び地権者説明について

Q. 戸中非常口の関係で、ある地権者に函面を持っていき、説明をしたとのことである。説明前には区に必ず連絡を取ってもらいたい。もし行うならば地権者を集めていただき一緒に行う事が望ましい。又、後で問題とならないようにきっちりと、会議録を作ってください。

JR東海

A. 事業説明会で戸中に非常口を作らせていただきたい旨をご説明した。そのためにまずは地質調査、測量等を実施させていただきたいということで、地権者の方にもご挨拶に伺っている。地権者の方には今後土地をお譲りいただかなければならないので、地権者単位で対応させていただきたいと考えている。個人に対しては土地単価等の話があるため個別での対応を考えているが、地区への説明が必要ということであれば、今後は地区へもご説明していく。

Q. 非常口についてはある一帯が対象となってくると思う。その中で土地の買収範囲については全体の話であるので、個々の話も必要かとは思いますが、その地域をどうしていくかの問題もあるので、地区の皆さんが出てきて実施するのが一番だと考えるがいかがか。

JR東海

A. 地区が先なのか地権者が先なのかという話になるかと思う。非常口については、用地を取得させていただくということが大前提である。そのため、事業説明会にて地区にはご説明させていただいたという理解で、直接地権者の方へお話を伺っていたが、今後はまず区長さんにお話をさせていただき、それから地権者の方への説明とすべきということであれば、そのように対応させていただきたいと思う。

Q. 基本的には地域が先だと思うので、よろしく願います。

JR東海

A. 今日のご意見を踏まえ、今後必要があれば地区単位での説明も実施していきたいと考えている。

4) 伴野区における工事計画について

Q. 伴野区では本坑出口、橋梁工事、発生土置き場等様々な問題があり、区の皆さんもとても心配している。後から色々な事柄が出て来ると感じている。地元で説明する責任があるので、事前に早めに出していただきたい。

JR東海

A. これだけ大きな事業となると環境面も含め、どのように情報をお出ししていくのが一番いいのか考えていく。中途半端な状態でお話しする事は出来ない点はその点にご理解願いたい。これからは出来るだけ早くお話しできるように対応していきたい。

Q. 発生土置き場の関係について賛成の方も大勢おり、その意見として現状ではいつ災害が発生するかわからないため、治山事業の一貫として発生土を安全に置いていただければ、一番いいことだと考えている。発生土置き場関係についても細かな情報を頂ければ出来る限りの協力はするので、決められたことについて隠し事の無いように願います。

JR東海

A. 発生土置き場について、治山という面も踏まえて、安全が担保出来るような方法で発生土を置いていきたいと考えている。これから地域の方々にもしっかりとご説明していく。

Q. 住民は発生土を運ぶ方法についてトラックの運行が一番心配している。埃の問題、騒音の問題、洗濯物を干せない等の問題がある。トラックばかりでなく他の方法も検討していただきたい。トラックの運搬が一番楽だからトラックでとのことの無いように、住民への影響が最小限になるよう工事について考えていただきたい。

JR東海

A. 発生土置き場候補地への運搬は、ダンプを使うのがベストだと考えている。他にベルトコンベア案もあるが、まとまった量が出るため、設置工事だけで大きな工事となってしまう、かえってご迷惑をお掛けしてしまうおそれがある。基本はダンプで運んで、粉じん対策等の環境対策をしっかりとるようにしていきたいと考えている。

Q. 区の役員、自治会の役員が相当な日数出労しているわけである。現在出労した方にはそれなりの手当を地元でお支払しているわけだが、それがすべて地元負担となっている。現在は村の方で対応していただいているため、まだ我慢ができるが、一つの企業に対して地元の応援が無ければ出来ないと思われるので是非ご検討願いたい。

JR東海

A. 地域の方々に時間をさいていただいていることについては、ご協力という形でご対応いただいている。その事について具体的に日当が出ないのかとのご意見かと思う。

これからますます地域の方々と連携を密にやっていかなければならないことから、こちらとしても何かできるか考えていきたい。

- Q. 伊那山地トンネル出口付近に広い平らな場所がある。誰が見てもあの場所は有効利用できると考えられたが、最近になり地元へ話があった。持っている情報について地元がこれだけ協力しているのだから、情報をきちんと出していただかないと住民に説明もできない。その事についてはしっかりと対応していただきたい。

JR東海

- A. はっきりと決まっていないことをどのように地域にご説明していくか、難しい面もある。ご意見も踏まえ、出来るだけ早くご説明できるよう対処していきたいと考えている。

- Q. 決まっていないことは話せないということはよく解るが、今回斜坑を450m掘るとの話があるが、当初から計画があったのではないか。

JR東海

- A. 当初からあったものではない。あれば事業説明会のおりにご説明していた。当時はまだ地元のことにはあまり詳しくなく地図上にて確認していた面もあった。今後についても新たな方法、場所などが出て来る可能性が全くないとは言えず、そこは早めに行政、区役員にご相談させていただきたいと思う。

- Q. 要望となるが現在計画している作業トンネルについて、それを利用して残土を運搬することを提案したい。トンネルから200mほど掘れば発生土置き場付近に繋がるため、そういった方法もあるのではないかとと思われるので要望として提案したい。

JR東海

- A. 貴重なご意見として検討させていただきたい。

5) 発生土置き場計画について

- Q. 発生土置き場は、現在村内で3カ所計画されている。治山や安全面の活用ということで進められているが、その反面住民の皆さんから危険性についてのお話しをよくお聞きする。現在調査を進めているところかと思うし、妥当性についての調査も進められておるかと思うが、そのあたりの内容について詳しく教えていただきたい。前回の委員会でも説明があったが、妥当性については県の基準でとのことである。県の担当の方にもお聞きしたいが、その後の責任範囲はどの程度安全面について、担保していただけるものなのかお伺いしたい。

JR東海

- A. 発生土置き場候補地については、この3カ所を発生土が出て来る場所からの運搬距離や環境面、現地の地形等を鑑みて、選定させてもらった。現在は測量や環境調査をさせていただき、計画図を書かせていただいている。これから計画図を地元の方、地権者の方にご提示し、土地や水路の将来的な構造などについてご説明したいと考えている。そこでのご意見を基に修正を行い、次のステップとして安全性の検討のための地質調査や、水路の流量計算を実施することなどを考えている。

長野県

A. 発生土置き場の話は、JRが長野県を通じて地元関係市町村に処分地の照会を実施した。各市町村から出された内容をワーキンググループにて検討し、最終的に県が取りまとめ、JRへ提示した。それを受けて、JRが調査を実施し発生土置き場の候補地として考えている場所について、今後たたき台となる概略の計画図を作成し、地元、地権者へ説明する中で次のより詳細な計画図を作成する段階へ進めていくと聞いている。

県としては、発生土置き場については、場所によって規制があり、その項目について法令に基づいてしっかりとチェック及び指導をしていく。あるいは許可をしない事も最終的にはありうるため、JRとしっかりと話をしていきたい。

最終的な跡地利用について、山林、農地をそのまま残すのか、或いは開発をするのかによって変わってくるので、その点も見据えながらチェックをしていく。安全面での担保について、未来永劫担保していく事は一般的には県やJRでは行わない。最終的には地元の方に管理していただくようになる。しかし、瑕疵により作ってすぐ壊れてしまうようなものでは困るので、県がしっかりと法令に基づきチェックをしていくことを基本に行っていきたいと考えている。

Q. JR東海では今までの中で、発生土を天竜川への堤防の嵩上げに利用するとの発想又は国との意見交換は無かったのか。

JR東海

A. 発生土の運用、活用先ということで、県に窓口となっていただいて発生土ワーキングを、各市町村、国交省の天竜川上流河川事務所にも入っていただいて実施しているが、その中で直接的にはご提案はなかったため、候補地とはなっていない。

Q. 発生土の問題を初めて聞いたのが4年位前からだと思うが、以前から天竜川の堤防の嵩上げに使えばいいと発言してきた。現在の情報の中で嵩上げをする必要が有る箇所が、多くあるとのことである。ご存知かと思うが、現在天竜川堤防については100年に一回という確率の降雨で計画されている。まだほとんどの箇所にて1mほど高さが足りないとのことである。JRが提案するか県が提案するかはわからないが、国へ提案することで発生土を危険な高いところへ運ばなくてもよくなるのではと思う。ここで一つの案として提案させていただくが、検討していただける余地はあるか。

長野県

A. 天竜川については国交省の天竜川上流河川事務所で直轄管理しており、長野県もそこへ流入する河川の管理を行っている。このため、支川を含めた中で堤防の大切さについては理解している。高さが足りない場所があれば、河川改修を実施していかなければならないという事だと思う。ワーキンググループについてはまだ現在も存続中であり、これからJRで検討された話が出て来る中で、新たな候補地について必要となる可能性もある。又これから管理者へ話す機会もあると思われる。そういったご意見もいただきながら、先ほどのワーキンググループの中で検討していけたらと考えている。

Q. 取り上げていただいて有難く思う。次回の委員会にてその後の経過を報告いただけ

ればと思う。この提案については昔からの経過もあり、是非お願いしていけたらと思う。

JR東海

A. 県より提案があれば天竜川の堤防の件についても検討はしていく。しかし、JRの考えとしては、現在豊丘村内にて考えている3カ所の発生土置き場は、地域や村で検討し出していただいております、優先度が高いと考えて調査し計画図も作成している。JRとしては現在予定している発生土置き場の候補地にて対応させていただくよう考えている。

6) 労務者宿舎について

Q. 段々と工事が進んできて、来年の今頃には道路の拡幅工事が始まっているのかと思われる。それに伴い多くの労務者の方が入って来られると思うが、今現在でその方々の宿泊される場所について分かっていたら教えていただきたい。

JR東海

A. 宿舎の場所等は、実際に工事を請けた会社が決めることになる。現在はまだ工事が発注されていない段階であり、工事が発注され、施工する会社が決まった後に、そのような内容についても工事説明会等でお話ししていきたいと考えている。

7) 工事用電源設置工事について

Q. リニア中央新幹線の工事用電源の確保のために、今現在壬生沢線での電柱の建替え工事を実施しているが、ある住民の方から説明も十分でないうちに、工事が進められてしまっているとのことのご意見があった。電柱を建てる場合に支線について十分な説明がないまま工事が実施されてしまったので、邪魔になるので移動を要望したところ移設してはもらえたが、当初から相談してもらえば、余分な手間もかけずに効率よく済んだのではと思える。そこら辺についてのこれからの対応についてお聞きしたい。

中部電力

A. 今頂いたご意見については、反省する面があると認識している。地権者の方から説明が不十分とご指摘を受けて早々に対応させていただいた。現地の方はご指摘の通り直させていただいて、ご理解はいただいたと思っている。今回、該当された方については、10カ所以上の対象箇所があり、説明が十分にできていなかったと感じている。これからはご相談させていただいた場所についても、工事の際には必ずお話しさせていただき、対応させていただくように徹底した。

Q. 今度の工事については、リニア関連の工事用電源ということで、利用することが無くなれば撤去すると思うが、そのあたりの計画についてご説明願いたい。

中部電力

A. リニアの工事は、これから10年間と考えているが、自治会長さんに説明しお願いの文書を回覧させていただいた中で、電柱についてはそのまま残させていただきたいという事をお話しさせていただいた。当然電気の必要が無くなった場所については工事後に撤去させていただくが、それ以外の使える所については基本的には残させていただきたいと考えている。現在、特に壬生沢から福島にかけて建替えを行い、

従来の細い線から幹線に変わってきている。それによって電力の安定した供給が行われ、停電する頻度も少なくなる事も考えられるので施設の有効利用についても考えていきたい。

Q. 壬生沢や福島区では電柱工事が実施されているが、これから雪が降って路面が凍結するので、くれぐれも事故の無いように冬場の安全対策を是非しっかりしていただくようお願いし、要望とさせていただきたい。

今建っている中電の電柱については、これから始まるリニア工事のためで10年ほど使用することあるが、10年経てば必要なくなるのではないか。今建てている電柱は、前からある電柱の横に建てているが、それを管理するのは地元の私たちであり、あれだけ電柱を建てられてしまっただけでは、管理がとても大変である。10年経てばいらなくなるというなら、どちらかの電柱だけ残せば良いと思う。景観も前に比べてかなり悪くなってしまっているので、10年経っていらなくなったらどちらかを撤去してもらおうよう是非お願いしたい。

中部電力

A. 今の段階で撤去することのお約束は出来ないのが現状である。不要になったものについてはその時点にて検討をさせていただくようお願いしたい。その時の電気の使い方により考えていくので、よろしくをお願いしたい。

8) 地質調査について

Q. 地質調査ボーリングについてお聞きしたい。一つ目はボーリング調査をする業者の選定はどのようにやっているのか。又、二つ目としてボーリング調査の箇所はどのように選定しているのか。三つ目としてどのくらいの太さのものをどの位の深さまで実施しているのか。四つ目としてコアはどのようなものが出ており、われわれが見せてほしい場合には見せてもらえるのか。そして、最後にボーリング調査の成果書が当然あると思われるが、それは公開されるものなのか。

JR東海

A. 業者は、業者の技術等を鑑みて選定している。現在のところコアを公開する予定はないが、地権者の方が見たいと言う事なら、それを拒む理由はないと思う。目的によってボーリングの太さ、深さ、場所は変わってくる。それより深い場所については別の方法で実施することになる。橋梁などを造る場所では橋脚を造る場所、又はできるだけ近い場所で行っている。変電所のような広い場所については出来るだけ多くの箇所で行えば良いが、箇所数に限りがあるため、地形等を考慮する中で場所を決め、実施している。

既に完了している箇所の深さは、場所によって異なるが20m~90m位、径は10cm程度となっている。

Q. 工事実施にあたり、地質などいろいろな事を検討されているかと思うが、今後その評価をするとすると、調査によって変わってくることはあるかと思う。その際は、きちんとした根拠をもって説明していただきたい。

JR東海

A. 調査結果を公表していくつもりはないが、ご意見はごもっともな事だと思う。必要

に応じ、調査結果が工事計画にどのように反映されているかご説明したいと思う。

9) その他要望について

Q. 豊丘村でリニアが顔を出すようになり、これからはこの子ども達を中心となっていくのかと思う中で、リニアとはどんなものなのかリニアが出来るとこんな風に変わってくる、というものを、学習という面で活用、利用させてもらうようなのはできるか。地元の子もたちが理解を深める事によってより理解が得られるので、そういったことにもご尽力いただければと思う。

A. 地域のお子さんにJRやリニアについてきちんと理解してもらいたい面もある。役場の方や関係者の方々にお話しただいて出来る事に取り組んでいきたい。本日のような硬い話でなくもう少し簡単な話をさせていただくような事により、少しでもご理解をいただくような事も考えていきたいと思う。

10) 中部電力による環境調査について

会長. 中部電力では自主的な環境調査を始めたとのことであるが、中部電力に対して何か言いたい事があればお願いします。

A. 中部電力については紳士的に丁寧に対応してもらっており、今のところは満足であるが、まだ初期段階であるので、これからが問題になってくるかと思う。こちらが受ける側で皆さん方が工事を行う側であるので、是非ともそれをわきまえていただき、こんな事かと思う事でも丁寧に対応をしていただきたい。

会長. 河野としても離れた場所になりますが、村全体の問題として無関心ということではありませんのでよろしくお願ひしたい。

Q. これから中部電力で変電所について計画を立てていくわけですが、今後の予定等で何かお話しすることがあればお願ひいたします。

中部電力

A. せっかくの機会をいただいたので、今後のスケジュールについてお話しさせていただく。現地の方で測量調査をさせていただいて、変電所の位置、送電線のルートについて、地元や行政へ提案させていただきたいと思うが、最初にご提案できるのが、来年の3月か4月頃になるかと考えている。その時には、丁寧な説明に努めていきたいと思う。

11) JR東海による地元訪問について

先程の話の中でJRさんは福島区に対して地元に行き話を聞くという重要な発言されました。この場で話をすることもできませんので、リニア対策室に早急に機会を作ってもらよう段取りをお願いしたい。膝を交えて話をすればより良い解決策も浮かぶかと思ひます。私たちは反対をしているわけではなく協力する体制で実施しているので、早急に村の方でそういう場を作ってもらようお願ひしたい。

会長. 当初不安という事で疑心暗鬼な面もあったかと思うが、いろいろやっていただければ協力してもらえるとのことなので是非とも丁寧な対応をお願ひしたい。

5.閉 会

会長あいさつ

これを持って第3回の豊丘村リニア対策委員会を閉会とします。寒い中大変にお疲れ様でした。

終了時間 午後9時 出席委員数 29名